

ある夏の日のこと

小川未明

青空文庫

姉ねえさんは、庭前にわさきのつつじの枝えだに、はちの巣すを見つみけました。

「まあ、こんなところへ巣すを造つくって、あぶないから落おとしてしまおうか。」と、ほうきを持もった手を抑おさえてためらいましたが、

「さわらなければ、なんにもしないでしよう。」

せつかく造つくりかけた巣すをこわすのもかわいそうだと考かんえ直なおして、

しばらく立たち止どまって、一ひとぴきの親おやばちが、わき見みもせず、熱ねっし

心こころに小ちいさな口くちで、だんだんと大おおきくしようと、固かためていくのを

ながめていました。そのうちに、はちはどこへか飛とび去さりました。

なにか材ざいりよう料りょうを探さがしにいったのでしよう、しばらくすると、ま

たもどつてきました。そして、同おなじようなことをうまずに繰くり返かえり返

していました。

「このはち一ぴきだけだろうか。」

彼女かのじよは、同じおな一ぴきのはちが、往いつたり返かえつたりして、働はたらいて

ているのしか見みなかつたからです。

「勇ゆうちゃんに、だまつていよう。」

見みつけたら、きつと巣すを取とるであろうと思おもいました。

姉ねえさんは、すわつて、仕しごとをしながら、ときどき思おもい出だしたよ

うに、日ひの当あたる庭にわ前さきを見みました。葉はの黒くろずんだざくろの木きに、

真まつ赤かな花はなが、点てん々と火ひのともるように咲さいていました。そし

て、水すいばん盤みずの水みずに浮ういたすいれんの葉はに、はちが下おりて止とまつて

いるのを見みました。

「あのはちは、きつきのはちかしらん。」

目めをはなさずに見みていると、はちは、しばらくたつて、つつじの枝えだの方ほうへ飛とんでいきました。

「やはりそうだわ。水みずを飲のみにきたんでしよう。」

翌朝よくあさ、庭にわをそうじするとき、姉ねえさんは、はちがどうしているだろうとわざわざつつじの木きのところへいつて、巢すをのぞいてみました。そこには、昨日きのうの親おやばちが、やはり一ぴきで、いっしようにけんめいに巢すを大おおきくしようとしていました。彼女かのじよは、はじめたそのとき、一ぴきのはちの力ちからで造つくられた巢すに注ちゆう意いを向むけたのです。

なんと並なみなみ々なならぬ心こころづか遣かいと、努どり力よくが、その巢すに傾かたむけら

れていることか。たとえば、雨風に吹かれても容易に折れそうもない、じょうぶな枝が選ばれていました。また、巢のつけ根は、さわつても落ちないように、強そうに黒光りがしていました。小さなはちにどうして、こんな智慧があるかと思ひました。ほどでした。

「そうだ、これを弟に見せてやろう。そして、りこうなはちが、どうして巢を造り、また子供を育てるのに苦心するかを教えてください。そうすれば弟は、ここに巢のあることを知っても、けつして落とすことはあるまい。」と、考えたのでした。午後になつて勇ちゃんは、学校から帰ると、庭に出て、一人で遊んでいました。

「勇ちゃん、はちの巣があつてよ。」

彼女は、弟の顔を見ました。

「ああ、知っている。」

「え、知っているの。」

弟が、どうして、それを落とさなかつたらうと疑われました。

「姉さん、つつじの木だろう。お母さんばちがひとりで巣を造つ

ているのだよ。」

「ええ、そうなの。」

「このあいだから見ると、だいぶ大きくなつた。あの穴の中に子供がいるんだね。暑いときは、水盤の水を含んでいて、巢の上を冷やしているよ。」

「まあ。」

そんなくわしいことまで、いつ弟は観察していたのだろうとびつくりしました。

しかし、姉さんは、弟が、どんなにそのはちをかわいがっているかを、まだ知らなかつたのです。

「君、はちの子を持っていくと、ほんとうによく釣れるよ。」

子供たちは、日課のように、みんなで川へ釣りに出かけました。彼らは、血眼になつて、はちの巣をさがしていたのです。勇

さんは、その話を聞かされたたびに、庭のはちの巣を目に浮かべました。

このごろ母はちの片方の羽がすこし破れているのを考えると、胸が痛くなるのを感じました。ほかの子供は、どこからか、はち

の子^こをさがして持^もつていくことがあつたが、勇^{ゆう}ちゃんだけは、
つも^もうどん粉^この餌^えを造^{つく}つて、釣^つりに出^でかけたのでした。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「生きぬく力」正芽社

1941（昭和16）年11月

初出：「女子青年 24巻38号」

1941（昭和16）年8月

※表題は底本では、「ある夏《なつ》の日《ひ》のこと」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ある夏の日のこと

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>